

文翔館室内楽シリーズ Vol.2  
～ Music from Bun-Sho-Kan ～

# プレシヤス カルテット

ベートーヴェン チクルス  
Beethoven Cycle by Precious String Quartet

ベートーヴェン  
初期・中期・後期の名作が  
そろう踏み

7.30 2017  
[日]

14:00開演 (13:30開場)

会場 文翔館議場ホール  
山形県郷土館 (山形市旅籠町 3-4-51)

L.V. Beethoven  
弦楽四重奏曲

第4番 | ハ短調 作品 18-4

第7番 | ラズモフスキー 第1番  
ヘ長調 作品 59-1

第12番 | 変ホ長調 作品 127

一般 3,500 円 (当日4,000円)

学生 1,500 円 (当日2,000円)

※演奏曲はやむを得ない事情で変更になる場合があります。

Vol.3  
2017.11.12 [日]

14:00 開演 文翔館議場ホール

仙台フィル / 山響メンバーによる  
珠玉の弦楽六重奏曲

ドヴォルジャーク / 弦楽六重奏曲 作品 48  
ブラームス / 弦楽六重奏曲 第1番

※演奏曲・出演者はやむを得ない事情で変更になる場合があります。

一般 3,500 円  
学生 1,500 円  
(当日500円増し)

◆チケット / 文翔館室内楽シリーズへのお問合せ

室内楽文化交流振興会

事務局：〒990-0055 山形市相生町 3-36 長澤 清美 気付 TEL 023-642-2488 (TEL & FAX)

代表：高坂 知節 takasaka@ad.cyberhome.ne.jp TEL 090-3128-0370

庶務：大内 勝利 deikatz@docomo.ne.jp TEL 090-1066-4646

主催：文翔館室内楽シリーズ実行委員会 主管：室内楽文化交流振興会

認定：公益財団法人 企業メセナ協議会

後援：山形市、公益社団法人 山形交響楽協会、公益財団法人 山形県生涯学習文化財団



～初期～ 弦楽四重奏曲 第4番ハ短調 作品18-4

1800年作曲、ベートーヴェン30才。このころの作曲家はいよいよ交響曲第1番を手掛け、意気揚々としている反面、耳の悩みも抱え始めています。この曲の調性は彼のシンボル調性の一つハ短調。これを作曲していたころ、不滅の恋人候補である、テレーゼ / ヨゼフィーネ姉妹が彼のもとにピアノの弟子として入門。第1楽章の激情は彼女らへの感情のあらわれとも考えられます。



～中期～ 弦楽四重奏曲 第7番ヘ長調 作品59-1

ラズモフスキー1番1806年作曲、ベートーヴェン36才。ベートーヴェンの1806年は、正に創作への油の乗っていた時期でした。第4交響曲、ヴァイオリン協奏曲、ピアノ協奏曲第4番などから、第5交響曲運命へと続くところです。推進力あふれる第1楽章、スケール感が素晴らしい第2楽章、mesto-悲しげに と書かれた第3楽章、そして休止なしで終楽章へ。一気に呵成に進みつつ突然のアダージョ、プレストで終結。



～後期～ 弦楽四重奏曲 第12番変ホ長調 作品127

1825年作曲、ベートーヴェン55才。前作の11番より約15年もの間、弦楽四重奏曲から遠ざかっていたベートーヴェンが、晩年の円熟した筆致と徹底した思考とをもってこの世界に復帰した一作。ミサ・ソレムニスや第九を書きあげ、幽玄なおもむきや哲学的な深さを有しています。まずは4人で奏される短くも劇的な7重音による序奏に耳を傾けてください。

..... Profile .....



加藤 えりな <ヴァイオリン>

東京芸術大学音楽学部附属高等学校卒業。同大学入学後、パリへ留学。パリ国立音楽院、及びイヴリー・ギトリス氏のもとで学ぶ。モーツァルト・サマーフェスティバルでグランプリ、ザルツブルク州知事賞。ヴィエニアフスキ(ジュニア)国際コンクール、リビツァ国際コンクール等で入賞及び特別賞。帰国後、東京文化会館における2度のリサイタルで好評を博す。東京都交響楽団とコンチェルトを共演。現在、ソロ、室内楽、オーケストラ等幅広く活躍中。東京芸術大学非常勤講師。



古川 仁菜 <ヴァイオリン>

京都市立堀川高校音楽科分校を経て東京芸術大学音楽学部に入學。在学中にアメリカのSouthern Methodist Universityに留学。ヴァイオリンをE.Schmieder、室内楽を岩崎洗の各氏に師事。芸大復学後、芸大フィルハーモニアと共演し卒業時に同声会賞受賞。卒業後はアンサンブル東風、アンサンブル・インタラクティブ・トキオのメンバーとしてオランダのガウデアムスやワルシャワ現代音楽祭、アジア音楽祭などに招聘される。ヴァイオリンを田辺良子、橋本寿子、澤和樹、森悠子、の各氏に師事。



岡 さおり <ヴィオラ>

国立音楽大学付属高等学校を経て東京芸術大学卒業、同大学院修士課程修了。在学中、東京文化会館新進音楽家デビューコンサートに出演。卒業時には皇居内の桃華楽堂新人演奏会にて御前演奏する。宝塚ベガ音楽コンクール弦楽器部門入選。倉敷音楽祭、草津国際音楽祭、ヴァチカン音楽祭などに出演。モーニングコンサートにて、芸大フィルハーモニアと共演。アンサンブルof東京、アンサンブル・ヴィルトウ、パンベルク東京カルテットメンバー。ヴィオラを市坪俊彦、菅沼準二、S.コロの各氏に師事。現在はソロ、室内楽、オーケストラなど多方面で活躍している。



小川 和久 <チェロ>

11歳よりチェロを始める。桐朋学園女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部を卒業し、フランス国立ボルドー音楽院へ留学。首席で卒業し、ボルドー市栄誉賞を受賞した。2000年には第4回「若手奏者のためのコンペティション」(現・名古屋国際音楽コンクール) ソロ部門にて優勝。国立ボルドーオペラ座、ラムルー管弦楽団と特別契約を結び共演したほか、現代音楽グループ「Cellox, TACLOA」を結成。2011年から山形交響楽団の首席奏者に就任したほか、プレシヤス・カルテット、長岡京室内アンサンブルなど、ソロ、室内楽でも幅広く活躍している。チェロ・ロックトリオカンターナメンバー。